

幼児教育研修（乳児・3歳未満児保育 1・2回） 受講者合計数135名

日時 令和4年9月28日（水）・10月28日（金） 15:00～17:00

場所 ギャラクシティ 西新井文化ホール・竹の塚地域学習センター

講師 東京家政大学 ナースリールーム 施設長 工藤 佳代子 氏

【内 容】～0・1・2歳児の育ちと保育者の関わりについて～

0, 1, 2歳児にとって大切なことは安心と安全です。それを土台に子どもの興味関心が広がり、自分を表現できるようになります。子ども一人一人の生活のペースや発達を尊重する保育とはどのようなものなのか、実際の子どもの姿を動画や写真で見ながら事例をとおして学びを深めます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・一つの行動、例えば大人側からは望ましくないと思われることも（物を投げる、遊具をひっくり返すなど）その子にとっては意味のある学びになっていると捉えて先走ってとめない。危険が及ばないように注意し、考える過程を奪わないようにしたい。
- ・1歳児の子どもが水を溜めたいという具体例でたらいをもって来るシーンがあったが、今までの自分なら、水を汲みたいという気持ちを汲み取りながら小さいバケツを手渡したと思う。しかし、その更に先まで見据え子どもが自分で考えどう行動するか見守ることも大切であると知ることができた。これからは、今までよりゆっくり子どもの姿を見守り、待てる保育を実践していく。
- ・子どもが遊んでいる際、つい声を掛けたり、危ないと思う行動は止めてしまいがちだが、色々な経験をすることで考えたり気づいたりすることができるようになった。大人の都合を押し付けるのではなく子どもの発見を大切にしたいと思う。
- ・一人一人を丁寧に見るということは、その子の発達、その子の生活リズム、その子自身の思いを尊重することだと分かった。一人一人に合った関わりや環境を用意していきたい。
- ・保育者は、一人一人の生活のペースを理解し子どもの安全拠点になることが、重要な役割であること。集団で生活する保育園だが、個が基本ということを忘れずに保育をしていきたい。
- ・遊びや生活の中で、毎日様々な経験をしている子どもたちの一瞬を見逃さず、その子は今どんな思いなのか、どんなことを考えているのかなどを考えながら、一人一人が経験していく過程を保障し見守っていききたい。